

## 研究主題

# 中学校社会科と総合的な学習の時間における郷土学習に関する 教科等横断的なカリキュラム開発 ～郷土学習を通じた社会参画の資質・能力の育成をめざして～ 八王子市立七国中学校 教諭 平澤 健太郎

## 1 主題設定の理由

八王子市では、副読本「わがまち八王子」という教材が作成されている。この教材は、中学校社会科における地理的分野・歴史的分野・公民的分野の内容に基づいて構成されており、郷土に関する情報が細かく記載されている。この副読本を活用すれば、八王子市の成り立ちや歴史、あるいは郷土の文化や市政の状況について理解を深めることができる。自分たちが暮らす街について知ることは、地域の良さや課題の把握につながり、課題解決まで至ることができれば持続可能な社会の実現が可能となる。こうしたことから、本研究の主題である「郷土学習を通じた社会参画の資質・能力の育成をめざして」を設定した。

また、持続可能な社会の形成者としての資質・能力の育成は、中学校3年間の社会科の学習のみならず、総合的な学習の時間の学習においても取り組んでいくことにより、効果的に育成できると考えた。

## 2 研究の内容と方法

### (1) 先行研究

#### ・教室完結型に陥る地域学習

地域学習は、身近な教材のため生徒の興味・関心をもたせることが容易であるが、実際に学校外に出て調査や関係機関との連携ができず、教室完結型になってしまう。また、地域教材や生徒から出る提案も机上の空論に終わることが多い。（宮本静子（2009）「中学校社会科地理的分野の「身近な地域」に関する教員の意識」新地理 57-3）

#### ・地域教材を軸とした授業展開

地理的分野・歴史的分野・公民的分野においては、地域を教材としたカリキュラム編成を行うことが可能である。例えば、地理的分野では、日本地理の学習で、各地方の学習に地域を当てはめて学習活動を展開することが可能である。また、歴史的分野では、各時代と地域の歴史を関連付けることで、今暮らしている街がどのような歴史をたどってきたのか、さらには、主要な出来事との関連や比較をすることが可能であることや、教科書だけの授業で終わらず、興味・関心をもたせることが可能である。公民的分野では、地方自治の単元で地域を教材として政治の仕組みを学習することで、自分たちが暮らしている街の政治についての理解と、政治に関わろうとする態度を育むことができる。（中尾賢（不明）「地域素材を活かした身近な歴史学習の授業構成－中学校社会科の歴史的分野「日本の近世」を事例として－」）

#### ・総合的な学習の時間との教科等横断的な学習

郷土学習は、総合的な学習の時間でも学習することができ、教科等横断的な学習計画を進めていくことが大切である。（冨田俊幸（不明）「カリキュラム・マネジメントによる社会科と総合的な学習の時

間における合科的な郷土学習－持続可能な社会の創り手としての資質・能力の視点での一考察－」実践研究ノート4)

## （2） 研究仮説

先述した先行研究を踏まえ、以下のような仮説を設定した。「郷土への愛着をもてるような教材を提示するとともに、中学校3年間を通して社会科と総合的な学習の時間を核として郷土に関して系統的な学習を展開すれば、社会参画の資質・能力の育成につながるだろう。」

ここで述べた社会参画の資質・能力とは、「郷土を愛すること」と「諸課題を見付け、解決しようとする態度」だと考えた。生徒は社会科や総合的な学習の時間の学習を通して、自ら課題を見付け、解決することを重ねることで、これから生きる社会の形成者としての資質・能力を育まれると考えた。また、郷土学習を社会科と総合的な学習の時間に効果的に行うことで、郷土への愛着を育むことができるだろうと仮説を立てた。

## （3） 社会科の3年間における郷土学習に関する指導計画の作成

- ・ 中学校3年間の社会科と総合的な学習における郷土学習の視点の年間指導計画の作成（別紙 補助資料）

指導計画を作成するにあたり、郷土学習を通して生徒の郷土理解と課題解決能力の育成を目標と定めた。第1学年の歴史的分野では各時代と八王子市の歴史を結び付けたり比較したりすることで、八王子市の成り立ちについての理解と歴史を身近に感じられるような指導計画の作成を工夫した。また、総合的な学習の時間で、八王子市の歴史をさらに深めるような学習活動にすることで、生徒の課題解決能力の育成につながるようにした。

第2学年では、地理的分野において各地方の主題と八王子市を結び付ける学習活動を設定した。日本の各地方の主題と、八王子市を結び付けることにより、八王子市の理解や課題発見能力の育成につながるができる。総合的な学習の時間においては、夏季休業日を利用して、実地調査を行う学習活動を設定した。これにより、地域学習を教室完結型にせず、実際の課題発見や解決に至る思考・判断・表現の学習活動を展開できるようにした。

第3学年では、公民的分野において郷土学習を結び付けることにより、社会参画の態度の育成を目標にした。例えば、地方自治の学習では、八王子市の政治についての理解と、どのような政治を行うべきかという学習活動により、地域の担い手としての資質・能力の育成ができる。総合的な学習の時間においては、第1学年から郷土学習の規模を、身近な地域、東京・関東地方、全国と広げていくことで、社会の形成者としての資質・能力の育成を重視した学習活動を計画した。

- ・ 第3学年を対象に郷土を教材とした研究授業の実施

八王子市に関する学習を公民的分野で行い、研究仮説の検証を行った。

## （4） 検証授業 令和7年（2025年）11月実施

中学校第3学年 社会科 単元名「地方自治」

### ① 検証授業の概要

地方自治の学習から、地方自治が国政とどのような違いがあるかについて理解するだけでなく、

八王子市が住民のためにどのような政治を行っているかを理解し（郷土理解）、八王子市がより良い街になっていくにはどのような政治を行っていけばよいかについて考える学習活動を設定した（持続可能な社会の形成者としての態度の育成）。

また、単元全体の学習の前に、八王子市についてどのようなことを知っているかということについて事前アンケートを行うとともに、学習後にも同様のアンケート調査を行い、学習活動の前後でどのような変化が起きたかを評価する。

## ②指導観

### （1）単元観

この単元は「中学校学習指導要領社会科編」の内容C 私たちと政治（2）民主政治と政治参加である。前単元で国政について取り扱い、地方自治は「民主主義の学校」と称されるように、国政とは違い自分たちの考えが政治に反映されやすいことが特徴にある。国政と地方自治の違いについて理解させるとともに、自分たちが暮らす街をより良くするために、政治にどのように関わればよいかについて考察させる。また、自分たちの町の良さや課題について考え、より良い町にしていくための方策を考えさせる。

さらに、地方自治の単元は政治的機能や住民の権利を理解するだけにとどまらず、社会の形成者としての資質・能力を高めることができる。本単元では、自分たちが暮らす街の理解と愛着を育てる機会として位置づける。

また、総合的な学習の時間の「郷土学習」と関連付けて、教科等横断的に八王子市についての理解を深めていくことで、我が町八王子市への愛着をもつことができると考える。

### （2）教材観

①「私たちの生活と税金」（2時間目）…八王子市の市政を行うにあたり、財政は欠かせない。八王子市の「私たちの生活と税金」デジタル教材を使って八王子市の歳入と歳出の内訳や、社会保障や教育などの内訳や用語の解説から、八王子市の財政の特徴と基礎的な知識を理解させることができる。八王子市だけでなく、八王子市周辺の市の財政の資料が掲載されているので、比較や八王子市の財政の特徴をつかむことができる。

②「わがまち八王子」（3時間目）…「わがまち八王子」は八王子市について、地理的分野・歴史的分野・公民的分野についての副読本教材である。本単元では、公民的分野の地方自治に関する資料を活用する。例えば、「市民が要望する市政」では、5年ごとに市民が要望する市政の分野についてランキング形式で載っている。中学生が望むことと、市民が望むことの違いや、市民がどのようなことを望んでいるのかについて考えることができる。その要望から、八王子市が実際に取り組んでいる市政や、中学生が考える市政について提案することができるので、生徒が主体的に街づくりに関わろうとする授業を展開をすることができる。

③学習用端末（4～6時間目）…八王子市の市政について考えるときに、プレゼンテーション用アプリ（以下、スライド）を使用する。生徒はそれぞれ自分が考えたい市政の分野を決める。同じ分野同士でグループを作り、具体的な方策を提案する。この時にスライドを使い、ファイルをグループで共有することで、協働して学習を進めるようにする。また、分野に応じて八王子市の取り組みの資料を教員が用意したり、各自が探したりすることができるので、資料の共有も学習用端末

の利点になる。どの資料を選択するかは各自にゆだねられるので、生徒の資料を活用する力も高めることができる（個別最適な学習）。そして、政治のテーマごとに提案の発表を聞いて、さらに八王子市の特徴を考えることができるので、協働的な学習に学習用端末は役立てることができる。

- ④八王子市市政世論調査（4～6時間目）…生徒が八王子市の課題を見付けるために、八王子市が毎年行っている市政世論調査を活用する。この資料を使って、八王子市にどのような課題があるか、市民の意識がどのようなになっているか読み取り、自分たちが望む市政の方向性を決める根拠に役立てる。

このような教材・教具・資料等を使用することにより、生徒は地方自治の住民参加という仕組みだけでなく、八王子市がどのような街なのかという理解と愛着をもつことができる。その上で、自分たちが暮らす街が今後どのような街に変わっていったらいいのかという社会の形成者として資質・能力の向上につなげていく。

### （3）生徒観

第3学年1組は男子17名女子19名で構成されている。各4名の学習班が9班あり、それぞれの班のメンバーの構成は、社会科の定期考査の結果を基にして編成している。話し合い活動については、どの班も積極的に話し合う様子が見られる。しかし、話し合ったことや調べたことをもとにして自身の考察を述べることを苦手としている生徒が約半数程度いる。例えば、わがまち八王子や、八王子市の政治に関する資料を使って諸課題を見付け、自分の考えを論述する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高めている。

第3学年の生徒は、1学年次に総合的な学習の時間で「八王子市の歴史について」調べ学習を行った。日本遺産があることも知っていたり、織物産業として街が栄えていたことを調べたりした生徒が多かった。第2学年では、八王子市の時代ごとの特徴を調べた。江戸時代から交通の要所だったことや、明治時代には織物産業として栄えたことが現在の街につながっていることを学習した。しかし、6月ごろに第3学年を対象に行った、「八王子市の良さや課題に関するアンケート」（自由記述）から、八王子市の良さについて、「自然が豊か」であると答えた生徒がほとんどである。課題については、「ポイ捨てが多い」と答えた生徒がほとんどである。歴史的な建造物や文化があることや、他地域を結ぶ交通の要所、宿場町として栄えていたことや八王子祭りなどの伝統文化を良さと挙げる生徒は少ない。生徒たちに街の良さを尋ねると、現在の暮らしやすさという自分たちの生活に関することをイメージする生徒が多く、政治的・経済的な部分で八王子市の役割について気づいていないようである。

本単元では、自然が豊かだけでなく、市政として八王子市の役割に気づけるようにして、八王子市についての理解と愛着をもてるようにしていく。そのために、学習前と後とでアンケートを行った、学習の過程でどのように理解と愛着をもてたか変化を評価したりしていく。

④単元指導計画

指導計画と評価計画（全7時間）

単元全体の問い：「八王子市とはどのような地方自治体なのだろうか」

時間	学習項目	○学習活動	郷土資料	評価規準 (評価材料)
1	地方自治とは	○課題「国政と地方自治の違いは何か」 ○地方自治が民主主義の学校と呼ばれる理由について理解する。		アー①
2	地方財政の仕組みと課題	○課題「八王子市の財政から他地域とどのような違いがあるか考えよう」 ○歳入と歳出について理解し、八王子市の財政の特徴を理解する。	八王子市『わたしたちの生活と税金』	アー① ウー②
3 本時	八王子市の市政	○課題「八王子市が市民に対してどのような政治を行っているか調べる」 ○自然・人口・交通・教育・経済などの視点から市政の取組を調べる。	八王子市市政世論調査	イー① ウー① ウー②
4・5・6	私たちの政治参加	○課題「八王子市をより良い街にしていくために求められることは何か」 ○今後の八王子市がどのような取組をしたら良いのかについて、自然・人口・交通・他地域とのかかわり・教育などの視点から、課題を分析し、提案を発表する。	わがまち八王子 八王子市市政世論調査	イー① ウー① ウー②
7	地方自治まとめ	○課題「八王子市は住民に対してどのような政治を行っていくべきか」について、まとめる。		アー② ウー②

⑤検証授業の流れ

・本時のめあて

八王子市が市民に対してどのような政治を行っているかについて調べて、課題を考える。

・身に付けさせたい資質・能力

①八王子市の取組を身近に感じ、課題を見付けて解決しようとする態度

②八王子市がどのような政治を行っているか（郷土理解）

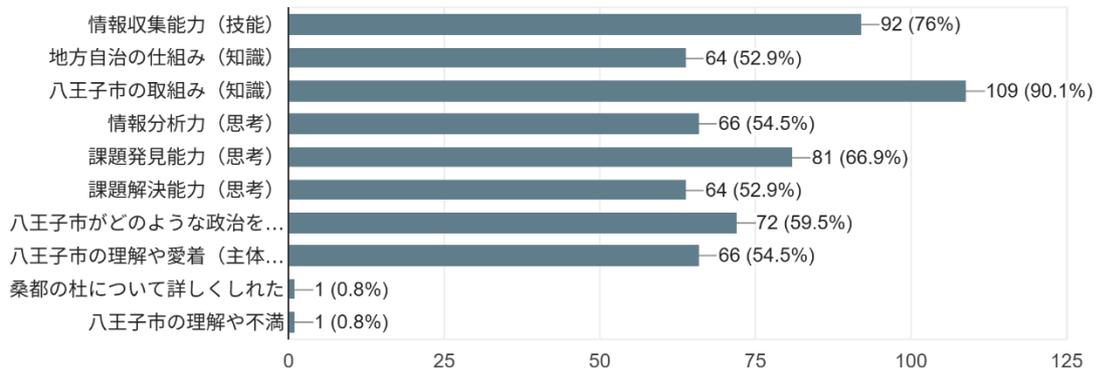
	○学習活動	指導上の留意点	評価
導入	○八王子市の政治の特徴とは何か考える。 ・「わがまち八王子」の、市政重点政策について、資料を参考にしながら、自身が望む市政のランキングを決める（1回目）。	ワークシートに従い、個人でどのような重点政策が大切か順位付けを行う。	
展開1	○自身が選んだ市政重点政策について、現在行っている市政や、自身が考える八王子市の市政の課題について、スライドにまとめる。	重点政策ごとに資料を用意し、資料を読み取ったり新たな市政について調べたりする。	思考・判断・表現 (ワークシート)
展開2	○学習班（4名構成）を作って、各自が調べたことを発表する。		
まとめ	○自分が調べたい市政の重点政策を決める（2回目）。 ・次回のグルーピングについて説明する。 (重点政策ごとに班編成を行う。)	ワークシートに八王子市の市政についてどのような理解をもてたか記述する。	主体的に学習に取り組む態度 (ワークシート)

3 成果と課題

単元の学習後に生徒に行った自己評価のアンケートでは、「この単元を通してどのような能力が高まったのか」という質問に対して、90.1%の生徒が知識・技能が高まったという回答をした。特に、八王子市の取組については多くの生徒が理解をできていた。八王子市の政治が住民にどのような政治をしていることが分かったことは、関心をもったり課題を見付けたりすることにつながっていくと考えられる。実際、課題発見能力（思考）や態度（主体的に学習に取り組む態度）も身に付いたと感じた生徒が半分以上いた。（資料1）

地方自治の学習を通して、どのような能力が高まりましたか？（複数選択可）

121件の回答



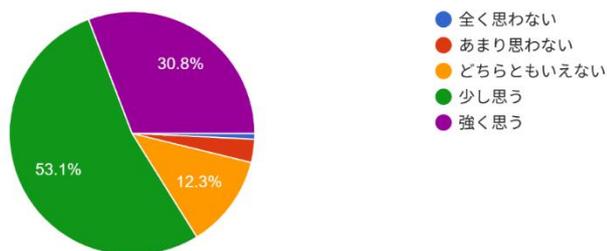
資料1 単元の学習後に行った、どのような能力が身に付いたかについてのアンケート結果

「思考・表現・判断」と「主体的に学習に取り組む態度」が高まったと自己評価した生徒が54.5%程度になってしまったのは、自分たちが提案する学習活動が教室で完結してしまったことだと考えられる。教室完結型ではなく、生徒が考えた政策に関係する市役所の方を招いたり、意見書を送ったりしたり、総合的な学習の時間と結び付けて地域に発信したりするなど、教室や学校内で完結しないようにすることで、地域への貢献度や自尊感情を高めていくことが必要である。

また、八王子市への愛着と、住み続けたいと思っている生徒の数に変化はあまり見られなかった（資料2）。もともと高かったことでもあるが、今回の学習を通して八王子市について知ったことや、好きになったという人もいた。自分たちが暮らす街をより良い街へ発展していく態度の自己評価もあるのは、今回の学習活動が影響していると考えられる。

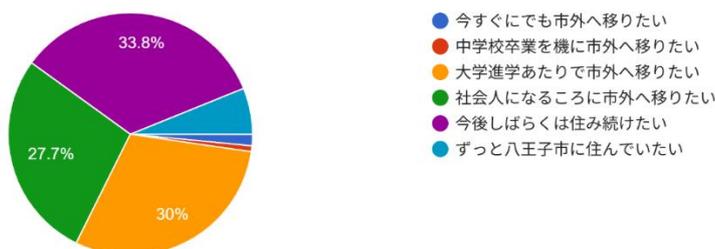
八王子市は好きですか

130件の回答



あなたは、八王子市に住み続けたいですか？

130件の回答



資料2 単元の学習前に行った、八王子・七国に対する意識調査

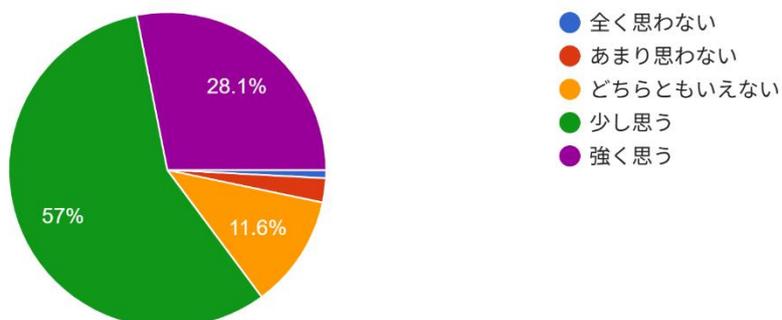
あなたは、八王子市に住み続けたいですか？

121件の回答



八王子市は好きですか

121件の回答



資料3 単元の学習後に行った、八王子・七国に対する意識調査

検証授業の結果、先行研究で示されている実践事例と同様に、郷土学習（地域学習）は教室完結型になりがちになるということが実証された。そのため、生徒の社会の形成者としての資質・能力を高めることが伸び悩んでしまったことが判明した。

しかし、身近な地域を教材とした学習は、生徒の興味・関心が高まり、郷土愛も向上することが分かった。社会の形成者としての資質・能力には、思考力、判断力、表現力等や態度だけでなく、資料を読み取る技能や知識が必要なこと、その能力を応用力を、日常から向上させていくことが大切であることが分かった。

郷土への愛着をもたせるために、3年間の系統的な学習や、教科等横断的な学習で計画的に学習をすすめていくことで、今回とどのような能力の向上に違いがあるか検証することが今後の研究の方向性になると考えた。

#### 4 参考文献

- ・宮本静子（2009）「中学校社会科地理的分野の「身近な地域」に関する教員の意識」新地理 57－3
- ・木村博一（不明）「社会科教育と郷土学習」
- ・山口幸男（2018）「社会科教育と道德教育－郷土愛をめぐって－」人間の福祉第 32 号 157－170
- ・二保泰雄「中学校社会科における地理教育の問題点－特に郷土教育との結びつきについて」
- ・福井延幸「中学校社会科「身近な地域の歴史」学習の研究－「落合」を素材として」
- ・五十嵐一浩（2006）「郷土愛を育てる地域学習の工夫－地域の人々とのふれあい体験を通して－」教育実践研究第 16 集 35－40
- ・中尾賢（不明）「地域素材を活かした身近な歴史学習の授業構成－中学校社会科の歴史的分野「日本の近世」を事例として－」
- ・冨田俊幸（不明）「カリキュラム・マネジメントによる社会科と総合的な学習の時間における合科的な郷土学習－持続可能な社会の創り手としての資質・能力の視点での一考察－」実践研究ノート 4
- ・中野修一（不明）「中学校社会科教育における「身近な地域の歴史」学習の意義について－総合的な学習の時間との連携の重要性－」
- ・佐竹桂一（2019）「郷土への見方・考え方を高めるキャリア教育」山形大学大学院教育実践研究科年報第 10 号
- ・玉城智美（2024）「社会参画できる力を育む授業の展開 ～生徒が探究心をもち、新たな問いをもてる憲法（人権・平和）学習の教材づくりを通して～」